

個人年金保険の加入メリット

ファイナンシャルプランナー 浅見 浩

将来の公的年金が本当にもらえるのだろうか？そんな不安を持つ人が増えてきています。そこで、今回は個人年金保険についてまとめてみました。

資産運用には大きく分けて2つのパターンがあります。一時金を預けて増やしていくのか、毎月コツコツと積立をしていくのかになります。

また、別の切り口で言いますと元本保証なのかそうでないのか？

1980年代でしたら元本保証でありながら5～9%の運用ができました。バブルがはじけた現在では、銀行の利息などは雀の涙にもなりません。

例えば、大手銀行の定期預金に毎月1万円の積立を行ないますと年間で12万円の積立ができます。現在の利率は0.04%だとしますと利息は税引き後、38円しかつきません。

そこで、民間の保険会社の個人年金保険に毎月1万円の積立を行なうとどうなるのか？

貯まっている金額は年間で12万円は同じですね。もちろん、その時点では利息はつきませんから0円。でも、所得税・住民税を納めている人であれば「個人年金保険料控除」受けられます。還付金額は年収によって違いますが、300万円の年収の方で約6,000円、年収700万円では約13,500円も還付があります。

みなさん、38円の利息と6,000円でしたらどちらが良いでしょうか？

生命保険料控除を利用している方は全体の73%もいますが、個人年金保険料控除を利用している人はわずか13.4%しかいません。(2008年度民間所得統計調査結果 国税庁参照)

個人年金保険の加入メリットをまとめますと下記のとおりです。

1. 確実な積立ができる
2. 個人年金保険料控除が受けられる

—コラムの無断転写・転載などを禁じます。—

Copyright©2010 Skirr Japan Corporation. All Rights Reserved.

生命保険もそうですが、個人年金保険を加入する場合のポイントは長期にわたる積立になるということ。預けている保険会社が途中で破綻しないことが良いですよ。

保険会社を見極めるための指標として2つは確認してください。

1. ソルベンシーマージン比率（保険会社の支配余力）
2. 格付け（S&P、Moody'sなど）

ソルベンシーマージン比率は基本的に高い数字の方が良いです。ただし、出来たばかりの保険会社の場合、給付実績がほとんど無いため異常に高い数値になっていますのでご注意ください。

また、格付けはもちろん高い（Aが多い）方が良いですね。

長期間のお付き合いになる訳ですから、なんとなく加入するなんてことのないように心掛けをしたいところです。

最近は各保険会社も商品に特徴を出してきています。

例えば「積立利率変動型個人年金保険」などは最低限の積立利率を保証しておきながら日本の10年国債の利率が上昇するともらえる年金額が増える仕組みになっています。

また、USドルや豪ドルなどで積立てる商品も登場しています。これのメリットは日本の個人年金と比較して積み立て利率が高いこと。ただ、為替リスクがあることに注意をしなければなりません。でも、毎月の積み立てであればドルコスト平均法という価格変動リスクを分散させることができますのでリスクは軽減されています。

確実な積み立てをしながら故人年金保険料控除を受けて、少しでも将来の不安を払拭していきましょう！

自分自身がどれくらいの「リスク」に対応できるのかを理解しておくのも重要です。

銀行の定期預金などで積立をするということは「増やさない」リスクを抱えることなるからです。

自分の資産を流動性・安全性・収益性に分割して、リスクを考えながら資産全体を殖やして行きましょう！！